

黒毛和種の平成 24 年度第 1 回育種価解析結果が公表 されました (育種価の利用の仕方)

45,355 頭分の枝肉データをもとに平成 24 年度第 1 回育種価解析を実施し、種雄牛 1,779 頭、長野県内の供用中繁殖雌牛（ここ 3 年間に分娩があった繁殖雌牛）2,127 頭について推定育種価が公表されました。

公表された推定育種価等の成績を、経営形態ごとにどのように利用するか説明します。

1 肉用牛繁殖農家

(1) 繁殖雌牛の整備

我が家の繁殖雌牛の推定育種価をもう一度見直してみてください。枝肉 6 形質ごとに A、B、C ランクがついています。

- A : 特に優れている (県内で上位 1/4)
- B : 優れている (県内で上位 1/4 から平均まで)
- C : やや劣っている (平均以下)

枝肉形質の多くが C にランクされている牛は、他の能力も考慮したうえで、淘汰や受精卵移植の受卵牛などを考えてください。

表 1 には当所管内、県下を代表する繁殖地域の A 地域、長野県全体のそれぞれの推定育種価の平均値を記載しました。

この結果から、当所管内は、脂肪交雑以外は県全体を上まわっていますが、県内 A 地域と比べるとまだ改良の余地は残されています。

表 1 地域別繁殖雌牛推定育種価の平均値

地域名	項目	頭数	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪の厚さ	推定歩留	脂肪交雑
		頭	Kg	cm ²	cm	cm	%	
当所管内		853	27.60	7.55	0.54	-0.28	1.27	1.19
県内A地域		456	33.94	8.15	0.59	-0.27	1.30	1.33
長野県全体		2127	27.35	7.39	0.52	-0.27	1.24	1.20

(2) 人工授精時の種雄牛の選定

繁殖雌牛の推定育種価をもとに交配する種雄牛を決める場合、繁殖雌牛の優点を伸ばす交配をするか、欠点を補う交配をするかは農家の改良目標にもとづき農家と人工授精師で相談して決めてください。また、近交係数は 10% を超えないような交配に心がけてください。

(3) 雌子牛の保留、導入

自家に各枝肉形質に優れた雌牛がいたとします。その牛から生まれた雌子牛は余程の欠点がない限り自家に保留して、繁殖雌牛の能力アップを目指すことが効率の良い改良方法です。他県から雌牛を導入することだけがレベルアップにつながるわけではありません。

2 肥育農家

(1) 肥育技術の確認（肥育農家の効果：下図1参照）

育種価解析をすると「肥育農家の効果」という肥育技術を確認できるデータが得られます。プラスであれば肥育技術が高いという意味です。全県の分布図と自身の位置を確認してみてください。

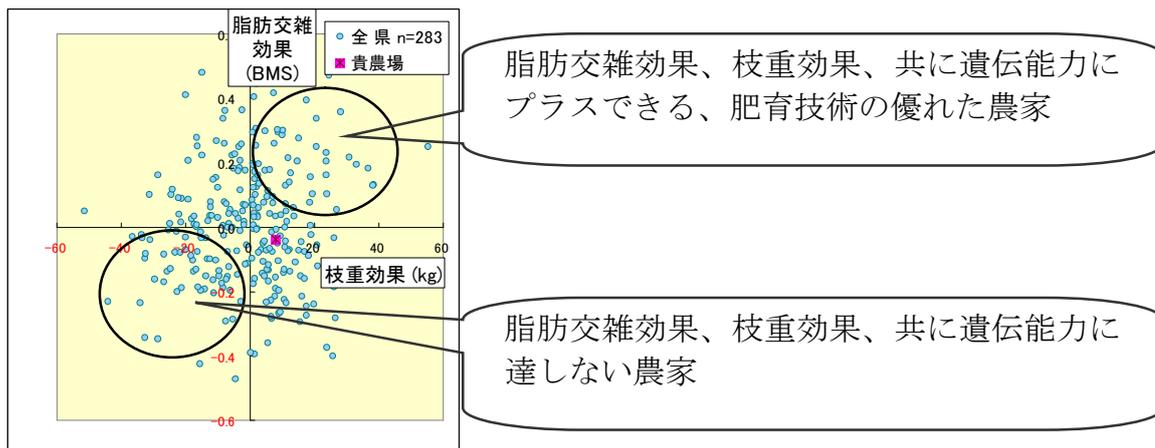


図1 肥育農家の効果の全県分布（脂肪交雑効果と枝重効果のみ）

(2) 肥育素牛導入のための資料（市場名簿に記載されたランク）

長野県中央家畜市場や全国各地の家畜市場の名簿には母牛育種価の欄があり、販売される子牛の母牛の枝肉重量、ロース芯面積、脂肪交雑（サシ）の推定育種価がABCランクで表示されています。交配種雄牛、血統、子牛の育成状況とあわせて購買の参考としてください。

3 酪農家

(1) 交雑種生産のための種雄牛選定

交雑種生産のためにどのような形質をもった黒毛和種種雄牛を交配したらいいか、大変難しい問題ですが、次のようなことが考えられます。

ア 交雑種肥育農家からの枝肉情報により、成績のいい種雄牛を交配する。

イ ホルスタイン雌牛の産次を考慮し、初産は生時体重の軽い種雄牛を交配する。

ウ 種雄牛の推定育種価から、特に脂肪交雑と推定歩留の能力に優れたものを交配する。

(2) E T子牛の期待育種価

自家で生産した受精卵でしたら子牛の期待育種価（父牛と母牛の推定育種価の平均）はわかっているはずですが、購入する場合は、できるだけ高い期待育種価をもった受精卵を移植し、自家保留、地域または県内の繁殖雌牛の改良に貢献したいものです。

黒毛和種の推定育種価は、黒毛和種に求められる経済的能力のうち産肉能力の6形質を数値化したものです。黒毛和種には産肉能力のほかに繁殖能力、哺乳能力などの重要な経済的能力も求められます。過度に産肉能力ばかりに注目して改良を進めるのはよい改良方法ではありません。

産肉能力の推定育種価は黒毛和種のもつべき能力のうちの一つであり、バランスのいい家畜改良の判断材料の一つとしてとらえてください。

育種価解析のお問い合わせは、松本家畜保健衛生所または地元JAまで